

令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果に係る教育長コメント

令和5年12月22日

令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査が、12月22日（金）に公表されました。

全国の公立学校の体力合計点は、令和4年度の結果と比較すると、小学校男子、中学校男子はやや上回り、小学校女子はほぼ同じ、中学校女子はやや下回っております。

本県の体力合計点は、令和3・4年度に引き続き、小・中学校男女ともに全国平均を上回っております。全国順位は、小学校女子が17位（昨年度と同順位）と、過去最高で、小学校男子は18位、中学校男子は31位、中学校女子は22位となっております。

また、令和4年度の結果と比較すると、小学校男女・中学校男子はやや上回り、中学校女子はやや下回っております。

体力合計点のよい方からABCDEの5段階で評定した体力の総合評価を全国平均と比較すると、小・中学校の男女ともに、上位のAB群の割合は高く、下位のDE群の割合は、低くなっております。令和4年度の結果と比較すると、上位のAB群の割合は、小・中学校の男子において増加し、下位のDE群の割合は、中学校女子を除き減少しています。

運動習慣等調査では、「1週間の総運動時間」が、小学校女子を除いて全国平均を下回っております。

また、「1日4時間以上のスクリーンタイム（平日1日当たりのテレビ、スマートフォン、ゲーム機等による映像の視聴時間）」の割合を全国と比較すると、小学校女子はほぼ同じですが、小学校男子、中学校の男女ともに高くなっております。

学校質問紙調査では、令和4年度の結果を踏まえた取組をしている割合、運動やスポーツが苦手（嫌い）な傾向がある児童・生徒向けの取組などを行っている割合、また、授業においてICTを活用している割合は、小・中学校いずれも全国平均を上回っております。

新型コロナウイルス感染症の影響をうけ、全国同様本県においても体力が低下傾向にありましたが、各学校において授業改善や体力向上のための工夫をした取組が行われていることが、今回の結果につながっていると考えられます。ただし、コロナ禍以前の水準には戻っておらず、引き続き取組が必要です。

県教育委員会としましても、今回の調査結果の分析を進めるとともに、小・中学校9年間を見通した体力・運動能力向上プログラムのさらなる活用、外部人材の派遣、指導主事等による学校訪問などの取組を継続して実施し、さらに、市町村教育委員会との連携を一層深めながら、各学校の取組を支援してまいります。